

箕輪町セーフコミュニティ 全体説明[2017.2.4現地審査]



箕輪町セーフコミュニティ推進協議会
会長 箕輪町長 白鳥 政徳
事務局長 向山 静雄



[町長挨拶後]

それでは、私から箕輪町の概要について説明し、セーフコミュニティ取組みについては推進協議会事務局長から説明いたします。【通訳】

箕輪町の概要

■位置	長野県のほぼ中央
■面積	85.91km ²
■人口	25,057人 [2016年10月1日]
■世帯数	9,365世帯 [2016年10月1日]
■特徴	田園工業都市



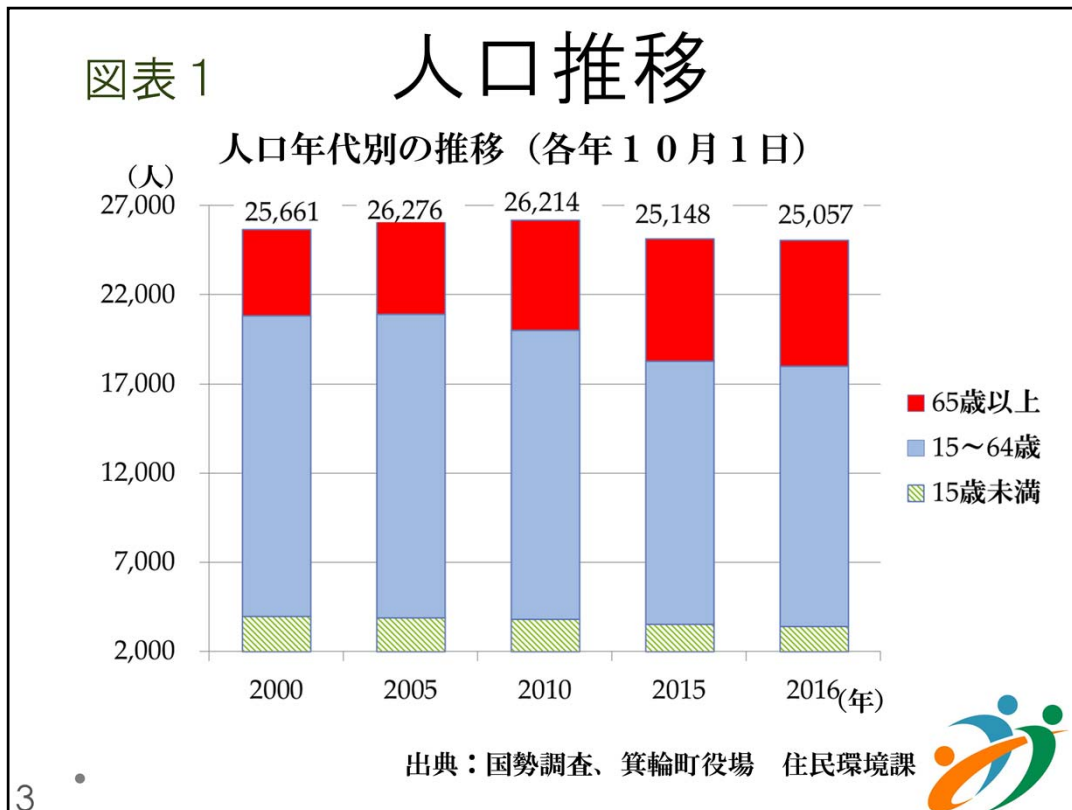
美しい自然に恵まれた箕輪町

2

[町長]

箕輪町は、長野県のほぼ中央に位置して南アルプスと中央アルプスに抱かれ、諏訪湖に源を発する天竜川が町の中央平坦地を南流。この天竜川に沿うように中央自動車道、JR飯田線が南北に縦走しています。【通訳】

人口約25,000人で美しい自然に囲まれ、交通網が整備されていることから大変暮らしやすい田園工業都市です。【通訳】



[町長]

箕輪町は、1955年(昭和30年)に3町村が合併して発足したことから、一昨年は多くの町発足60周年記念事業を展開したところであります。【通訳】

町発足当時人口18,000人の農業の町は、インフラ整備、製造業の発展、住宅整備など一步一步着実に成長・発展し、現在約25,000人の県下最大の町となり、【通訳】

先進開発型企业が進出し、工業製品出荷額は県下トップクラスであることから田園工業都市と紹介するわけです。【通訳】

しかし、当町においても少子高齢化時代を迎え、ここ数年徐々にではありますが人口減少が到来し、高齢化が進んでいます。【通訳】

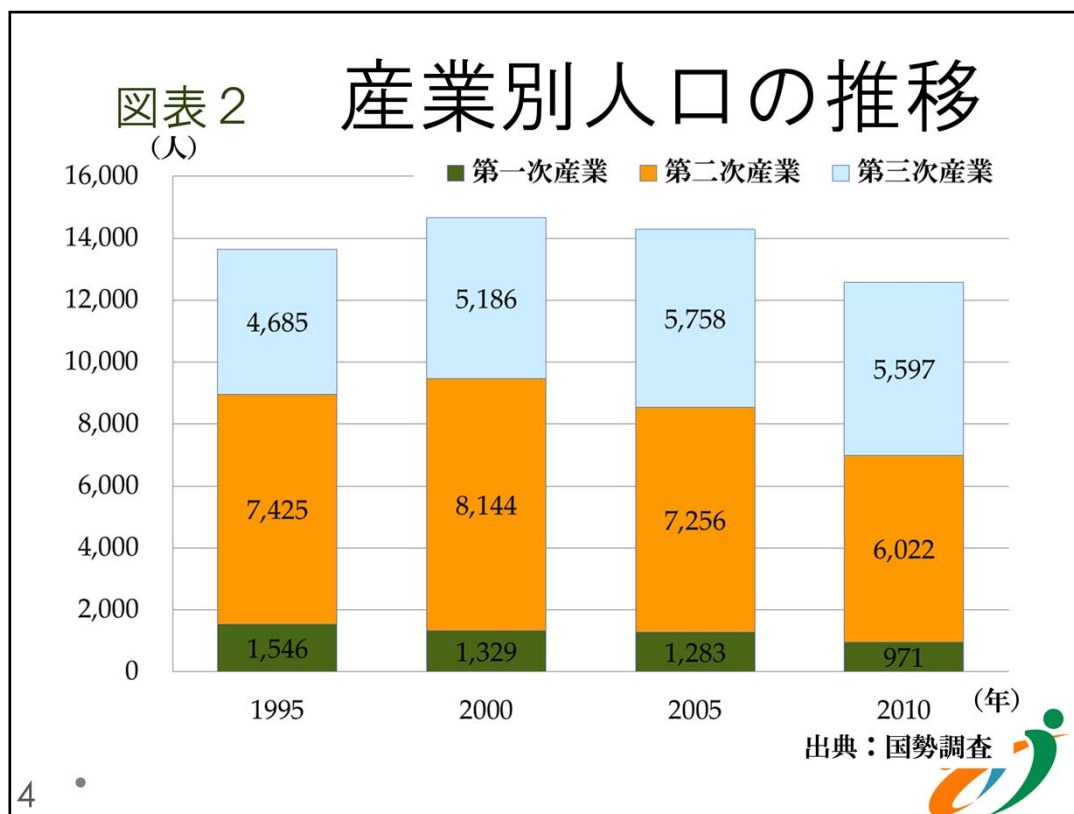
[参考]

箕輪町の高齢化については、

2010(平成22年)年 6176人(23.6%)

2015(平成27年)年 6874人(27.4%) ⇒長野県は、30.1%で高い方から13番目

2016(平成28年) 7032人(28%)



[町長]

箕輪町の産業別人口は、第二次(工業等)、第三次産業(商業・サービス業)が多い状況ですが、いずれも減少傾向です。【通訳】

これは、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少と、2008年のリーマンショックによる外国人(ブラジル人等)の帰国による外国人の減少が影響しているとみています。【通訳】

なお、2015年の国勢調査結果公表は今春なので表にありませんが、外国人については減少傾向から、2015年以降増加しています。【通訳】

[参考] ○産業別人口の傾向

一次産業は人口・比率とも減少。

二次産業は、人口・比率とも増加から減少傾向。

三次産業は、比率は増加しているが人口は増加から減少傾向

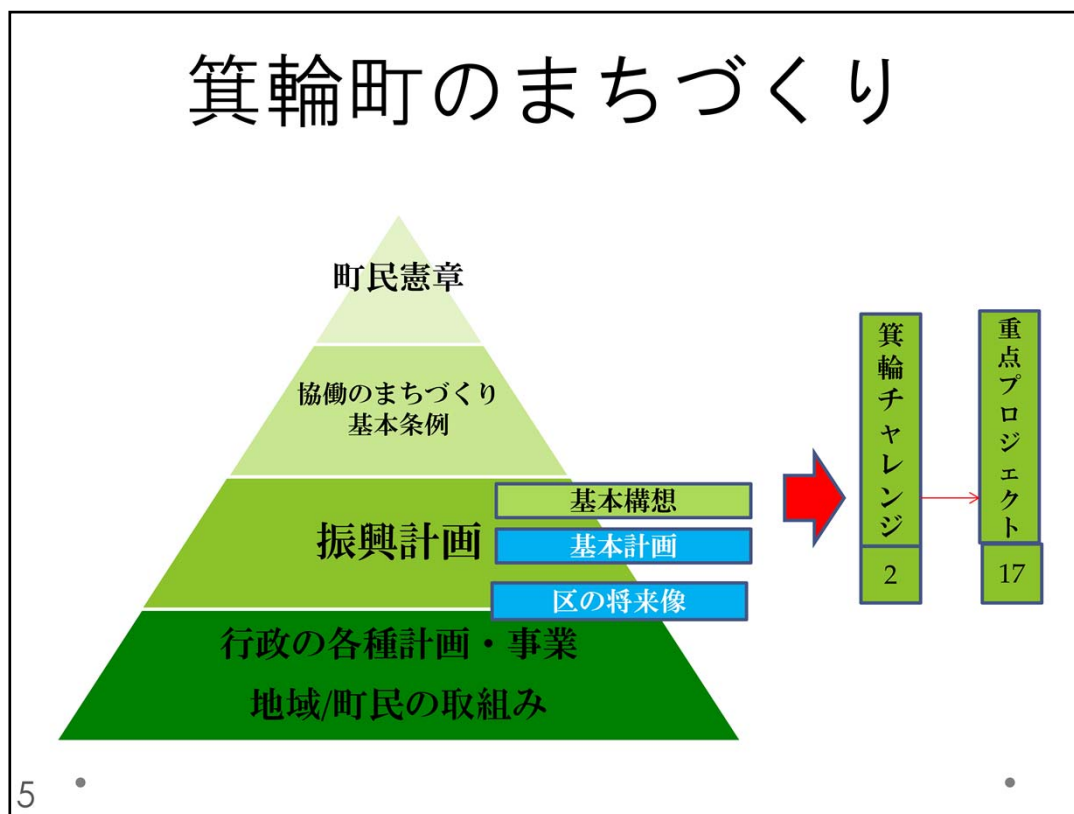
○生産年齢人口(15～65歳)

2000年(平成12年) 16,822人(65.5%)

2005年(平成17年) 16,993人(64.7%) 外国人 1,609人

2010年(平成22年) 16,223人(61.9%) 外国人 992人

2013年(平成25年)	外国人	670人
2014年(平成26年)	外国人	621人
2015年(平成27年)	外国人	642人
2016年(平成28年)	外国人	686人



箕輪町の町づくりについて説明します。【通訳】

箕輪町は、町民憲章のもと2014年7月施行の「箕輪町協働のまちづくり基本条例」により、町民との協働のあり方を明らかにしました。【通訳】

この条例の規定に従い、振興計画のまちづくり基本構想と基本計画を策定しています。【通訳】

基本構想は、目指す「箕輪町の将来像」や「第5次振興計画の基本理念」を明らかにし、「具体的な目標」と「重点プロジェクト」を示した『箕輪チャレンジ』から構成しています。【通訳】

基本計画は、基本構想を実現するために実施する基本的な施策です。【通訳】

第五次振興計画

- **計画年次** 2016年度～10年間
- **基本構想** みんなで創る、
未来につながる、
暮らしやすい箕輪町
～人口減少時代への挑戦
「箕輪チャレンジ」～



■ 箕輪チャレンジ

- 目標1 人口減少時代に即した暮らしへの転換
- 目標2 将来の暮らしやすさを守る人口規模の維持

6



[町長]

2016年4月スタートした10年間の第五次振興計画では、【通訳】

本格的な人口減少時代において町民一人ひとりの参加により、いままで築き上げた箕輪町の暮らしやすさを損なうことなく未来につなげなければならないことから

【通訳】

基本構想を「みんなで創る、未来につながる、暮らしやすい箕輪町」とし、【通訳】

人口減少時代への挑戦「箕輪チャレンジ」で

- ①人口減少時代に即した暮らしへの転換
 - ②将来の暮らしやすさを守る人口規模の維持
- を掲げ、【通訳】

住民満足度70%
人口規模24,800人以上
を目標としています。【通訳】

第五次振興計画における SCの位置づけ

- チャレンジ目標1** → 人口減少時代に即した暮らしへの転換
プロジェクト7 → 世界に誇るセーフコミュニティのまち
安全・安心チャレンジ
- キーワード 「地域の絆、協働、継続」
- 概要 町民が、暮らしに対して安全・安心
という実感を高める取組み
①全町及び衣食住分野への展開
②子どもの安全
- SCの利点活用 ①データに基づく分析と対応
②まちづくりのツール



7

[町長]

第五次振興計画でセーフコミュニティについては、チャレンジ目標1のプロジェクト7において「世界に誇るセーフコミュニティのまち～安全・安心チャレンジ」としています。【通訳】

内容は「地域の絆、協働、継続」をキーワードに、セーフコミュニティ国際基準による徹底した安全・安心の追及により『心安らく豊かな暮らしができるまち箕輪』を目指します。【通訳】

取組みとしては、全町及び衣食住分野への展開や、子どもの安全として保護者を含めた保育園児への危険予知トレーニング導入や通学路の安全対策等です。【通訳】

SCは、地区活動に活かされなければなりません、SCの良いところは数字をすごく大切にすること、何かあればデータで比べられることで、取組んでいる地区では分析と対応ができる状況になっています。【通訳】

よってSCの全町展開を図り、第五次振興計画を推進いたします。【通訳】

以下、推進協議会事務局長に報告させます。【通訳】

箕輪町の安全に関する状況①

図表3 外傷による死因上位3位(2010～2015)

年齢	人口	1位	2位	3位	4位	5位
5～9	1,226	がん、事故・災害				
10～14	1,267	事故・災害				
15～19	1,224	自殺	がん			
20～24	1,080	自殺				
25～29	1,145	自殺	事故・災害			
30～34	1,300	自殺	がん、その他			
35～39	1,676	がん、脳血管疾患、自殺、消化器疾患、事故・災害				
40～44	1,978	脳血管疾患	自殺、事故・災害、その他			がん
45～49	1,692	がん	その他	心疾患、呼吸器疾患、自殺、事故・災害		
50～54	1,433	がん	心疾患	その他	呼吸器疾患、自殺、消化器疾患 腎臓疾患、事故・災害	
55～59	1,447	がん	自殺	その他	心疾患、脳血管疾患	

8

出典:箕輪町死亡統計



【事務局長】推進協議会事務局長の向山です。【通訳】

最初に箕輪町の安全に関する状況について説明します。【通訳】

箕輪町の、2010年から2015年における外傷による年代別の死因上位3位の表です。
(通訳)

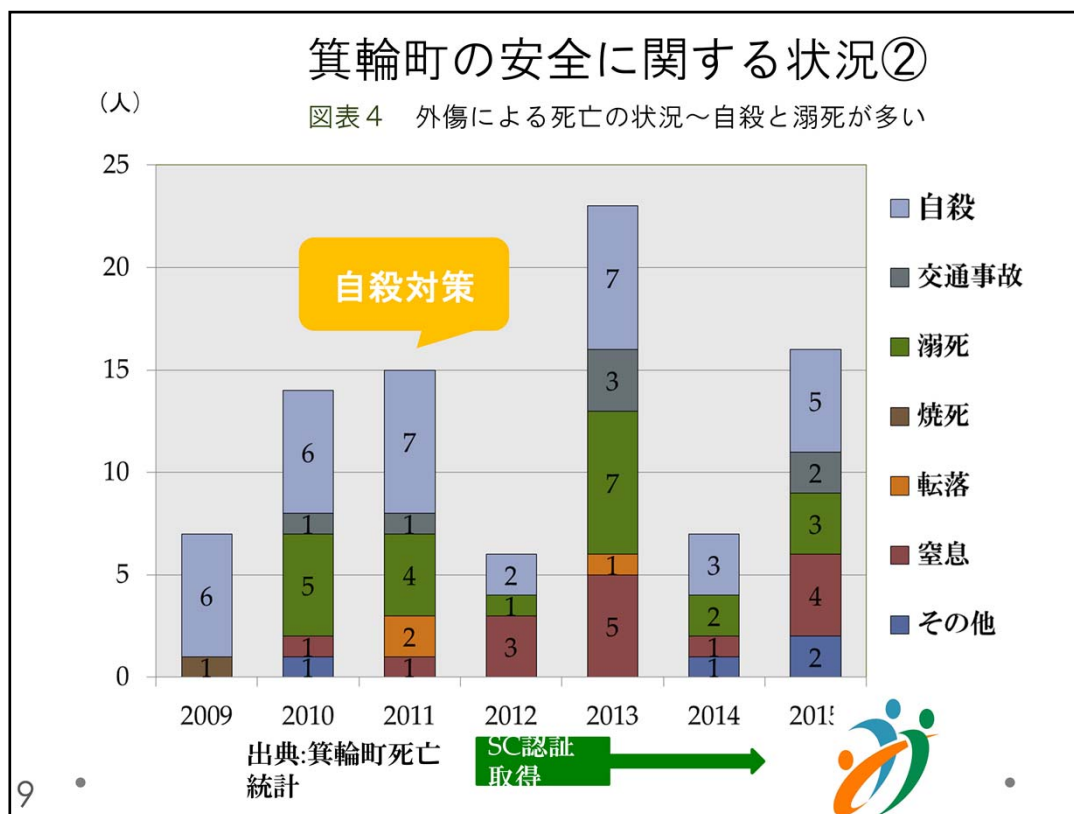
自殺を赤色、外傷・災害による死因を青色にしていますが、40歳までは自殺、外傷・災害による死亡がトップで、45歳以上ではがんがトップとなり、自殺、外傷・災害死は2位以下となっています。(通訳)

全体としては、外的要因による外傷の死因が多いと言え、60歳以上は心疾患、がん等の病気による死因が上位を占めています。(通訳)

[参考資料]

※死者数

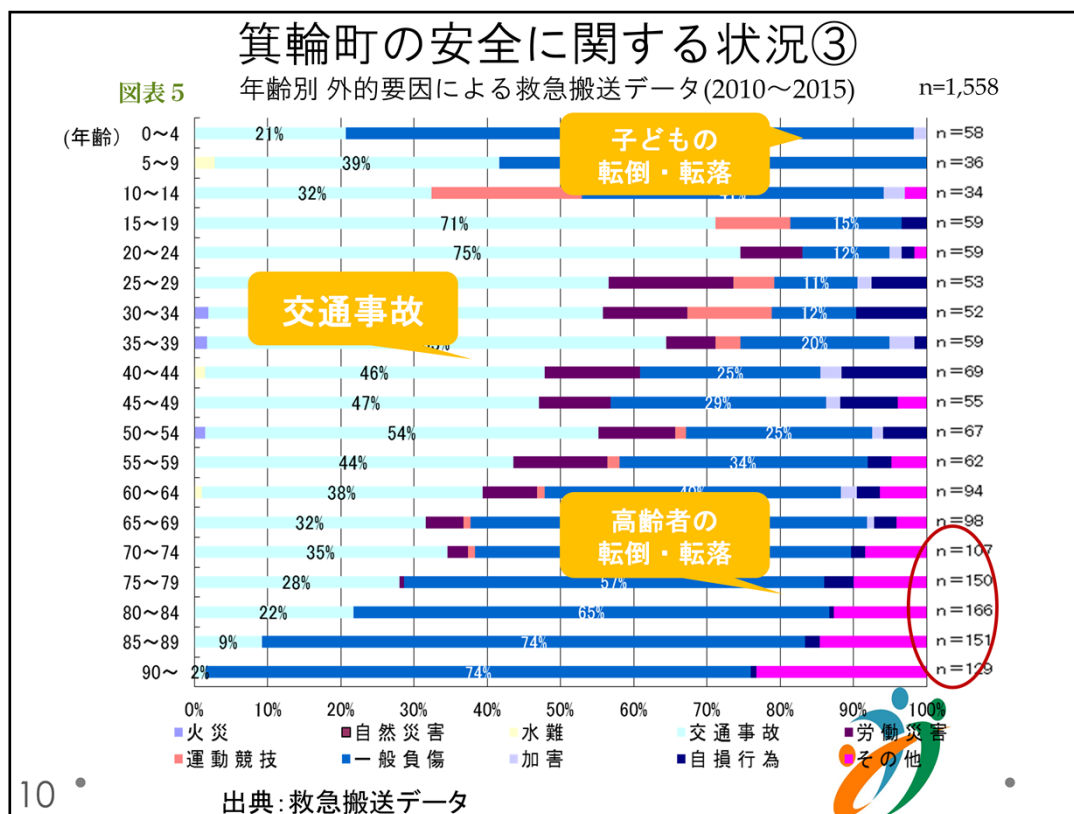
- ・当該表の積み上げデータ
- ・次のスライド「外因別死亡者数の推移(2009～2015)」
- ・内閣府自殺統計原票データ



外傷による年別の死亡状況です。(通訳)

年別には増減がありますが、傾向としては自殺と浴槽で溺れ死ぬ「溺死」が多い状況となっています。【通訳】

【参考】溺死については、高齢者の浴室でのヒートショック等による救急・死亡事故が多いことから2016年11月から高齢者の安全対策委員会で新たな課題として対応。



救急搬送データのうち、2010年から2015年における、年齢別、傷病別のグラフです。【通訳】

全体的には、赤枠のとおり高齢者の救急搬送が多く【通訳】

交通事故は、5歳から74歳までの各年代で30%を越え、15歳から24歳までは70%を越えています。【通訳】

転落・転倒等の一般負傷は、全年代で比率が高く、特に4歳までと85歳以上では70%を越えています。【通訳】

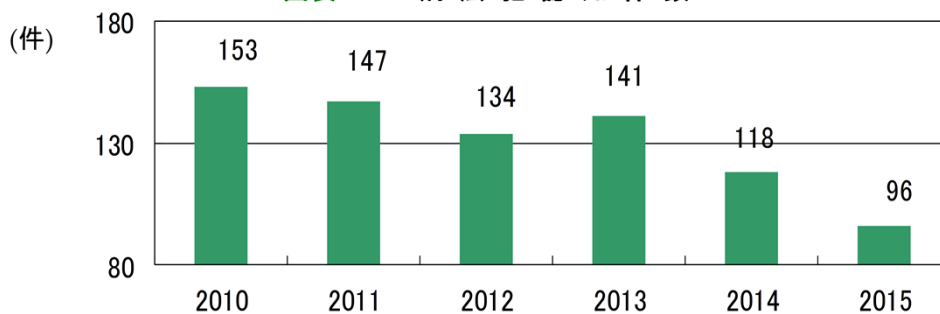
その他は、病院から病院への転院等です。【通訳】

【参考】

交通事故34.34%と一般負傷47.37%を合わせると81.71%

箕輪町の安全に関する状況④

図表6 刑法犯認知件数



出典:警察統計

図表7 独居者で安心だと感じる人の割合

	2011 n=468	2013 n=35	2015 n=54
安心を感じる	3.4 %	22.9 %	31.5 %
どちらかと言えば感じる	43.9 %	45.7 %	37.0 %

独居高齢者の不安

出典:2011年、2013年、2015年箕輪町セーフコミュニティアンケート

11

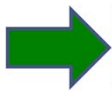
図表6は、刑法犯の認知件数になりますが、SC認証前は150件前後で、取得後は年々減少傾向となり、2015年には100件を割るまでになりました。【通訳】

図表7は、アンケートによる、独居者で安心と感じる人の割合です。安心と感じる人の割合は徐々に高くなっており、認証前の3.4%から2015年には31.5%となっています。【通訳】

セーフコミュニティの導入経緯

■2009年7月長野県警察本部
の紹介

■予防科学でけがを減らす取り組み



箕輪町の目指す姿と一致

■2009年12月 取組宣言



12 •



セーフコミュニティの導入経緯です。【通訳】

セーフコミュニティとの出会いは、犯罪や交通事故等の減少は地域社会との協働なくしては実現できないとする長野県警察の紹介ですが【通訳】

予防科学でけがを減らす安全・安心な町づくりは箕輪町の目指す姿と一致し、2009年12月の取組宣言により、町長のトップダウンと大雨災害の経験を踏まえた地域のボトムアップの調和によりスタートしました。【通訳】

[参考]

2009年12月14日 取組宣言

認証取得までの歩み

2010年

- 2月 箕輪町セーフコミュニティ推進協議会設置
- 8月 モデル地区(北小河内)指定
- 10月 対策委員会等設置

2011年

- 4月 役場総務課にセーフコミュニティ推進室設置
- 10月 モデル校(東小学校)指定

2012年

- 5月 (事前審査⇒現地審査)⇒**認証取得**

日本で4番目・町村で初め



13 •

認証取得までの歩みについては、取組み宣言の翌年、会長を町長とする箕輪町セーフコミュニティ推進協議会を設置し、そのもとに外傷調査委員会以下五つの対策委員会を設置しました。【通訳】

活動拡大関係では、土砂災害被害が取組み要因となった北小河内区をモデル地区、モデル区内小学生が通う箕輪東小学校をモデル校に指定しました。【通訳】

そして事前審査(指導)、現地審査を経た2年5か月後の、2012年5月12日に全国4番目、全国町村・長野県内初めての認証となりました。【通訳】

[参考]

2010年2月20日推進協議会発足時71団体83人⇒71団体78人⇒現在68団体会長と委員71人

2010年3月1日KSC発足⇒8月27日モデル区に指定

2010年5月庁内検討委員会(課長クラス12人)、作業部会(係長クラス15人)設置

2010年10月25日各対策委員会発足

2011年4月県警OBを迎えて、SC推進室設置

2011年6月8-9日事前審査

2011年10月12日東小学校をモデル校指定

2012年1月31-2月1日現地審査

2012年2月24日内定受理(内定は2月15日付)

2012年5月12日認証式

認証取得後の歩み①

2012年

- 11月 第6回アジア地域セーフコミュニティ会議共催

2013年

- 富田、八乙女地区に推進協議会発足

2014年

- 3月 「箕輪町安全安心の日」制定
⇒毎年「安全安心の日の集い」

2015年

- 4月 セーフコミュニティノート作成
- 5月 安全安心の日の集い2015
各対策委員長が地元新聞へ執筆
- 7月 共通・共感テーマ設定
「あいさつで広げよう地域の絆」

2014.11～
あいさつ運動

対策委員会
地域へ拡大



14

そして認証となった2012年の年末には、豊島区、小諸市と「第6回アジア地域セーフコミュニティ会議」を共催し、箕輪町へのトラベリングセミナーでは86人の方を迎えました。【通訳】

2013年はセーフコミュニティの全町展開に力をいれ、富田区と八乙女区に組織が発足、【通訳】

2014年3月にはセーフコミュニティ活動の推進を期する日として、認証取得日の5月12日を「箕輪町安全安心の日」と宣言しました。【通訳】

2015年からは、これまでの知名士講演のフォーラムから、参加者が話し合う分科会と報告の全体会からなる手作りの「箕輪町安全安心の集い」を開催しています。

【通訳】

7月にはコミュニケーションが活動の根幹であることから共通・共感テーマとして「あいさつで広げよう地域の絆」を設定し、前年11月開始した「あいさつ運動」の拡大・定着に努めています。【通訳】

[参考]

2016年1月 庁舎に懸垂幕掲出

認証取得後の歩み②

2015年

- 10月 地区への活動推進補助金制度スタート
年20万円以内 上限100万円
福与地区に推進協議会発足

- 11月 モデル地区追加指定(富田、福与)

2016年

- 5月 安全安心の日の集い2016
- 6月 中原地区に推進協議会発足

2016年

- 12月 長岡地区に推進協議会発足
(町内6番目)



各地区の取組み



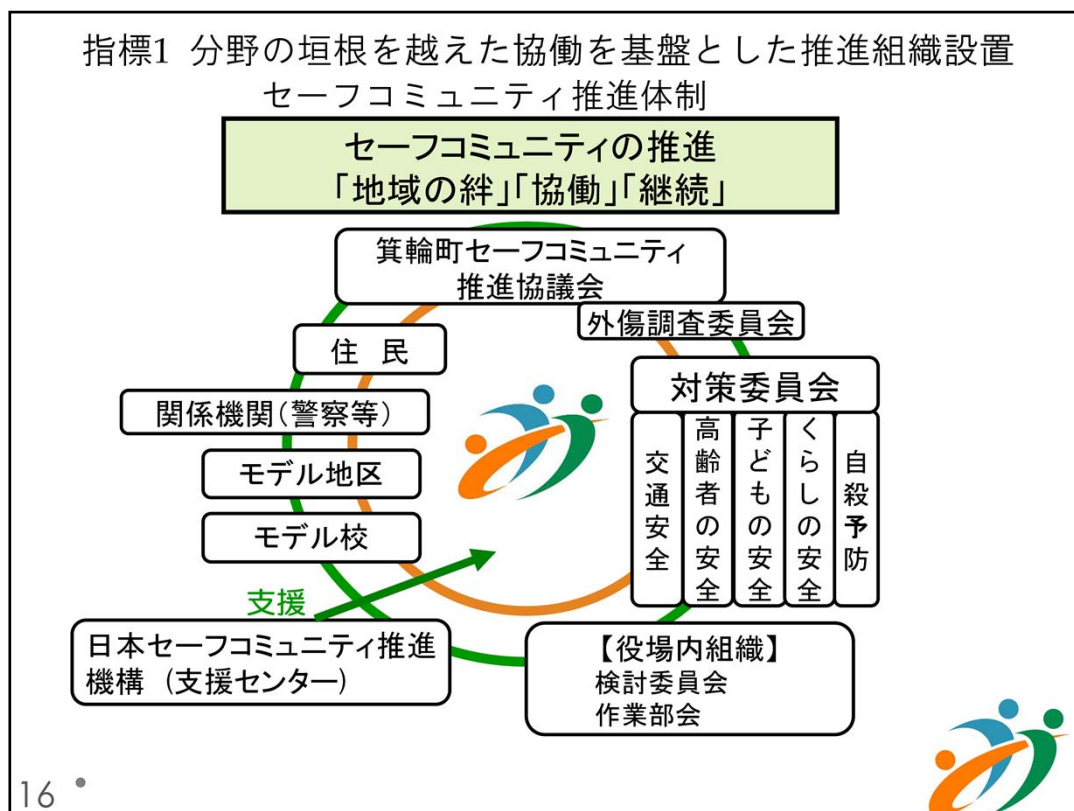
さらに2015年には、セーフコミュニティの全町展開を図るため、町が10月からセーフコミュニティ活動補助金制度をスタートさせました。(通訳)

この制度は、地区に設置された協議会に活動推進補助金として、1年度20万円を限度として経年合計100万円を上限とするもので、毎年20万とすれば5年間補助するもので、2015年に北小河内、富田が活用、2016年には設立している全5地区が地区の活動に必要な物品購入等に活用しています。(通訳)

そして全町展開のため、モデル区として富田区、福与区を追加指定して三つのモデル区とし、以後中原地区、そしてつい先般町内6番目となる長岡区のセーフコミュニティ推進協議会が発足し、町内では三分の一を超える地区で組織化されました。(通訳)

[参考]

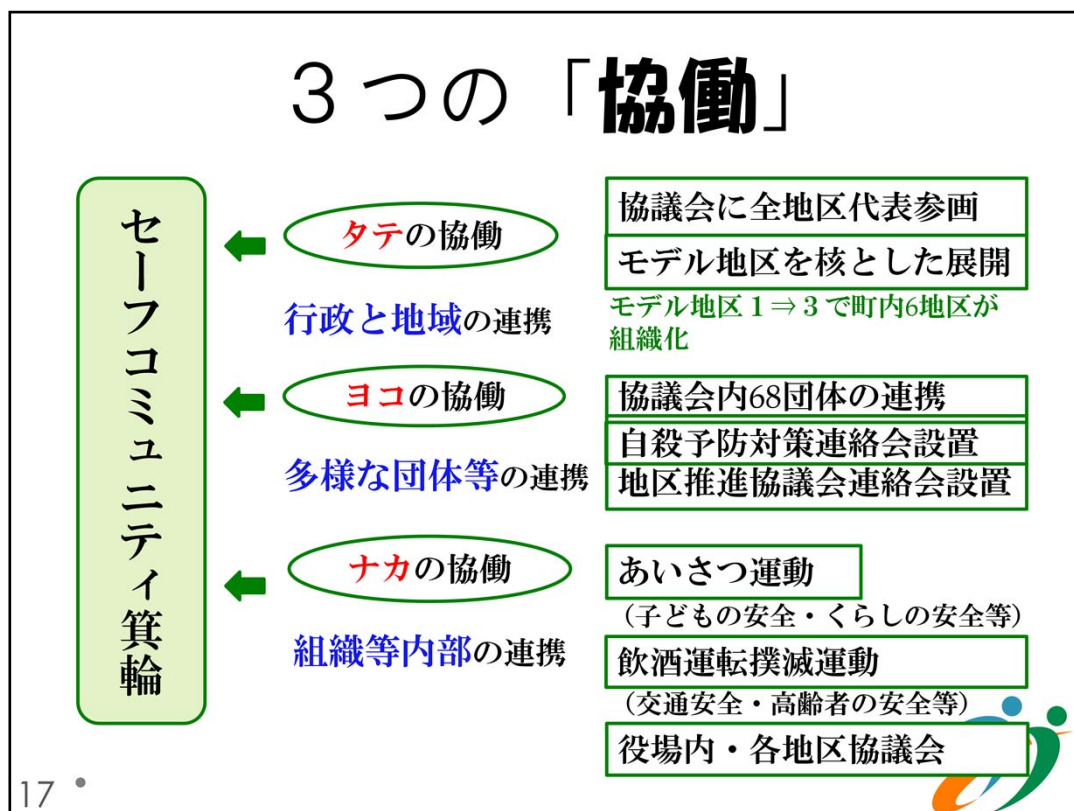
補助金は、事務用品をはじめ、命のカプセル・防犯ブザー配布、感震ブレーカー補助等地域活動に応じた活用がされている。



指標関係について説明します。まず指標1です。【通訳】

体制は図のとおりで、現在68団体、会長と委員71人の合計72人で構成する推進協議会のもと、外傷調査委員会と交通安全以下5つの対策委員会が設置され、【通訳】

役場内組織やモデル地区、モデル校をはじめとする地域住民、警察等関係機関が「地域の絆、協働、継続」をキーワードに日本セーフコミュニティ推進機構の支援を受け、連携した活動を推進しています。【通訳】



体制は、垣根を越えた協働が求められていることから、タテ、ヨコ、ナカの3つの協働に努めています。【通訳】

行政と地域のタテの協働については、推進協議会に全15地区の区長が参画し、3つのモデル地区を核とした推進を展開しています。【通訳】

多様な団体のヨコの協働については、推進協議会を構成する68団体の連携、自殺予防では2013年対策委員会の外郭に連絡会を設置して取組み拡大のための学習会を開催すると共に、裾野拡大のため公募で3名の参加者を確保しました。また後ほど報告しますが地区組織と町の連絡会があります。(通訳)

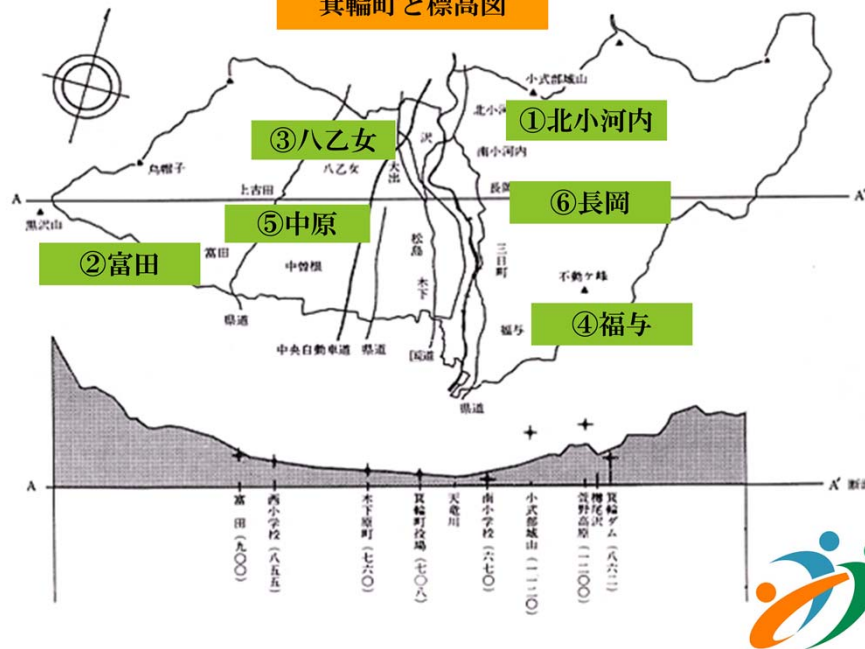
組織内のナカの協働については、「あいさつ運動」で子どもの安全対策委員会とくらしの安全対策委員会が協働。飲酒運転撲滅では高齢者が多いことから、交通安全対策委員会と高齢者の安全対策委員会が協働していますが、あいさつ運動は全SC組織と活動への展開は今後の課題です。(通訳)

[参考]

・自殺予防対策連絡会 2013年10月10日に20名で発足 現在4回の会議実施

S C 取組み地区 位置図

箕輪町と標高図



18

箕輪町は、町内15地区の自治会により構成されていますが、15地区中6地区にセーフコミュニティ推進協議会が設置され、○番号が設立順です。【通訳】

中心市街地に未結成ですので、今後の全町展開上の課題であります。【通訳】

なお、富田地区安全安心推進協議会の活動報告については、明日現地を予定しています。【通訳】

地区との協働

箕輪町ホームページ

2016.10～地区ページ新設

○ セーフコミュニティ

セーフコミュニティ |
セーフコミュニティ「事前指導」が行われました！ |
携帯型「命のカプセル」・夜光反射リストバンド |
箕輪町地区セーフコミュニティ推進協議会連絡会 |

○ 安全・安心の知恵袋

安全・安心の知恵袋 |

○ 靴かかと反射シール

靴かかと反射シール |

○ SC活動推進補助金

SC活動推進補助金 |

○ 各地区SC推進協議会

北小河内セーフコミュニティ協議会（KSC） |
富田地区安全安心推進協議会（TAA） |
福与区セーフコミュニティ推進協議会 |
中原区セーフコミュニティ推進協議会（NSC） |

○ 飲酒運転撲滅店宣言

飲酒運転撲滅店宣言 |

地区連絡会

2016.11～発足

- 目的 情報共有等の協働
- 構成 地区SC協議会、設置予定地区、町



地区活動については、2016年10月に箕輪町のHPがリニューアルされたことから、地区ページを新設して活動を紹介しています。【通訳】

また2016年11月には、情報共有等の協働を進めるため、地区のSC組織と町が「箕輪町地区セーフコミュニティ推進協議会連絡会」を結成して、町セーフコミュニティ推進室と各地区推進協議会が1年ごとに持ち回る幹事で庶務を担当することとしました。【通訳】

箕輪町安全安心の日の集い①

2014.3 「安全安心の日」宣言趣旨

- 認証取得日の5月12日を
 - セーフコミュニティ理念の再認識
 - 全町内への一層の普及啓発と定着

「集い」開催の背景

- 意見発表の場づくり等町民参画

成果等

- 対策委員会課題の周知と提言
- 参加意識の高揚

取組み拡大



20

箕輪町では、認証取得後の2014年3月に認証取得日の5月12日を「箕輪町安全安心の日」に宣言し、【通訳】

5月12日をセーフコミュニティ活動の推進を期する日として日本記念日協会の記念日登録するとともに、セーフコミュニティ理念の再認識、全町内への一層の普及啓発と定着に努めています。【通訳】

その実践として、箕輪町セーフコミュニティ推進協議会がセーフコミュニティに関する町民の意見発表の場として手作りの「箕輪町安全安心の日の集い」を毎年開催しています。【通訳】

その成果としては、対策委員会の取組み課題を分科会テーマにしていることから、対策委員会課題を知ってもらい、提言をもらっています。町民の参加意識高揚により活動取組みの拡大を期待しています。【通訳】

箕輪町安全安心の日の集い②

- 開催日 毎年「箕輪町安全安心の日」
(認証取得日の5月12日)に開催
- 参加者 町内外を問わず参加自由
- 内 容 テーマごとの分科会と全体会等



21 •

これは、箕輪町安全安心の日の集いの状況です。【通訳】

2016年は150名参加のもと、町内の劇団による寸劇、分科会、安全安心の日宣言唱和に始まる全体会を行いました。【通訳】

なお、2015年の集いでは、モデル区の北小河内が日本セーフコミュニティ推進機構から功労賞を受賞し、2016年はモデル区の富田が奨励賞を受賞し、大きな励みとなりました。【通訳】

[参考]

2015年の集いには、100名参加

指標2 両性・全年齢、あらゆる環境・状況をカバーする 長期プログラムの継続実施

図表8 全年齢・環境におけるプログラム 単位:事業【】内の数字は町以外が主体、赤字は多いもの

	領域	子ども (0～14歳)	青年 (15～24歳)	成人 (25～64歳)	高齢者 (65歳以上)
不慮の要因	1家庭	6【4】	4【3】	4【2】	10【6】
	2保育園・学校	9【7】	5【3】	-	-
	3職場・労働	-	5【5】	6【6】	5【5】
	4交通・公共	6【6】	6【6】	6【6】	7【7】
	5余暇・スポーツ	3【3】	3【3】	3【3】	4【4】
意図的要因	6自殺	5【2】	7【3】	7【3】	7【3】
	7暴力・犯罪	5【3】	5【3】	4【2】	4【1】
その他	8災害	7【5】	9【6】	7【4】	8【5】

指標2について説明します。【通訳】

箕輪町は人口約25,000人ですが、このように様々な安全対策を展開しており、全ての年齢層、生活環境、状況をカバーしています。【通訳】

表中の数字は、プログラムの数で、カッコ内は行政(町)以外が主体者となって取組んでいるものです。行政だけでなく地域や民間組織などでも様々な活動が展開されています。【通訳】

【参考】不慮の要因では交通関係が多く、家庭での高齢者、保育園・学校の子どもに対するプログラムが多く、その他の災害では青年と高齢者が多く、内容は自然災害対策と消防関係。【通訳】

指標3 ハイリスク集団・環境及び弱者を対象としたプログラム実施
 図表9

	ハイリスクグループ	設定した背景
1	交通事故の発生割合が高い高齢者	高齢者事故比率が30%以上で県よりも高い
2	転倒によるけがの割合が高い高齢者	一般負傷の68.9%が高齢者。そのうち68%が転倒
3	園内・学校内でけがが多い園児・小中学生	子供の一般負傷のうち0～12歳が80%以上
	不審者に狙われやすい小中学生	声かけ事案は伊那市の2倍と高い
4	不安のある独居高齢者	高齢者独居世帯の44.2%に不安がある
5	自殺による死亡者数の割合が高い20～60歳代の男性	男性、特に20～60歳代が60%を越えている

23

指標3について説明します。【通訳】

ハイリスクグループと設定した背景です。【通訳】

高齢者は交通事故の比率が高く、転倒による骨折が多い。【通訳】

学童・園児は体育館・庭でのけがが多く、不審者による被害がある。【通訳】

独居高齢者は暮らしに不安がある。【通訳】

男性の悩み相談は少なく、20～60歳代の自殺が多いからです。【通訳】

《参考》

○外国人がハイリスクの中になく理由

外国人については、減少傾向にありましたが、2015年以降増加しています。

2011年 872人 2012年 831人 2013年 670人 2014年 621人

2015年 642人(2.55%) 2016年 686人(2.74%) ⇒町人口の3%弱

2016年10月現在、ブラジル人が最も多く 427人(72.6%) 次いでフィリピン人が94人(13.7%) 中国人が83人(12.1%)

①具体的な事案として、外国人だからという事案の把握がない(統計として、外国人についての個別データがない。)

②ハイリスクにおいて、外国人に区分したものでなく、全ての箕輪町民として対応している

③外国人については言語が通じない問題があることから、防災対策において、2009年にポルトガル語、中国語、英語の外国人対応の防災ハンドブックを作成配布している。

図表10 指標4 根拠に基づいた取組み実施

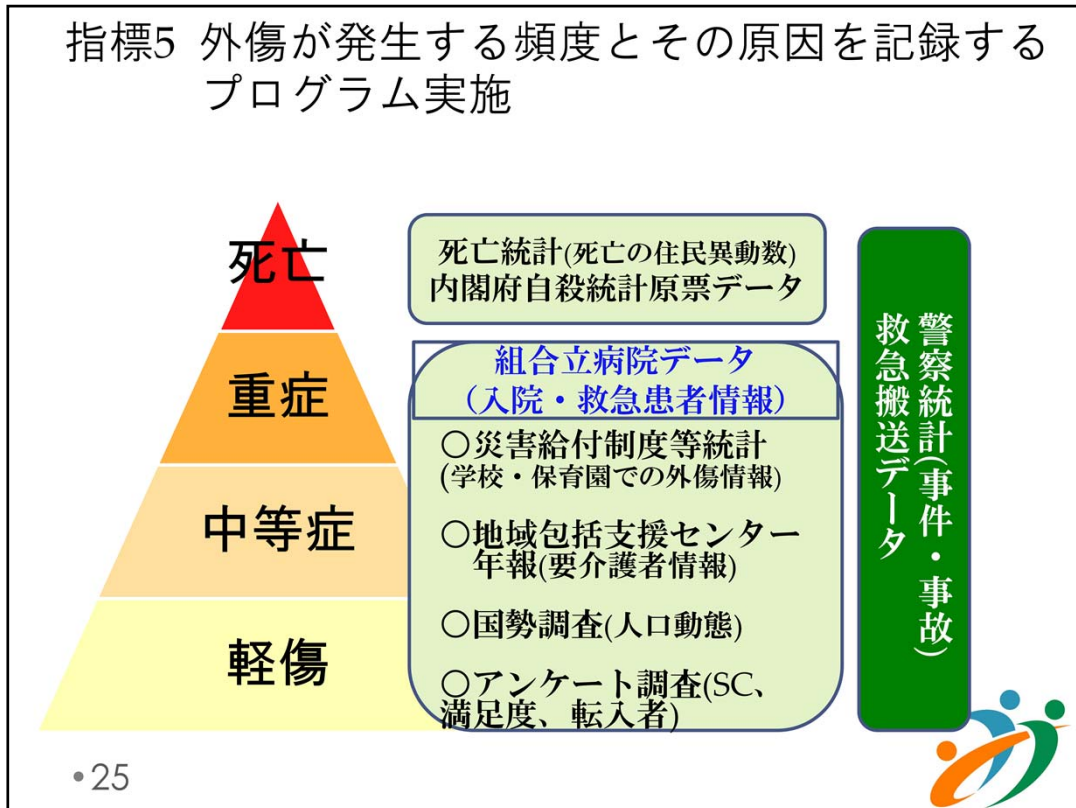
重点課題	データ等から導き出した課題
交通安全	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間の重傷、死亡事故割合が多い ・高齢者事故のうち運転中の事故が多い ・交差点の事故が多い
高齢者の安全	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内での高齢者の転倒事故と75歳以上の高齢者の骨折が多い ・骨折、骨粗しょう症による要介護認定者の割合の伸び率が大
子どもの安全	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校は体育館・校庭、保育園は保育室・遊戯室・遊具でのケガが多い ・0～6歳児のケガが多く、17時～21時に多い ・登下校時の事故減少及び不審者等に関わる危険抑制のため、通学パトロール隊等の活動必要
くらしの安全	<ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者はくらしに不安がある ・不審者、声かけ事案があり、道路等の暗さへの不安感がある ・地震被害の軽減対策が不十分
自殺予防 24	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺について正しく理解されていない ・関係団体の繋がりが少ないため情報共有や有効活用が不足 ・男性は悩みを相談する人が少なく自損行為にいたった際、死亡に繋がる

対策委員会の取組み

指標4について説明します。【通訳】

先ほど説明したデータ、アンケートなどから導き出した交通、高齢者、子供、くらし、自殺予防の各課題に対して各対策委員会を設置して取組みを行っています。個々の内容については、各対策委員会の取組みで報告いたします。【通訳】

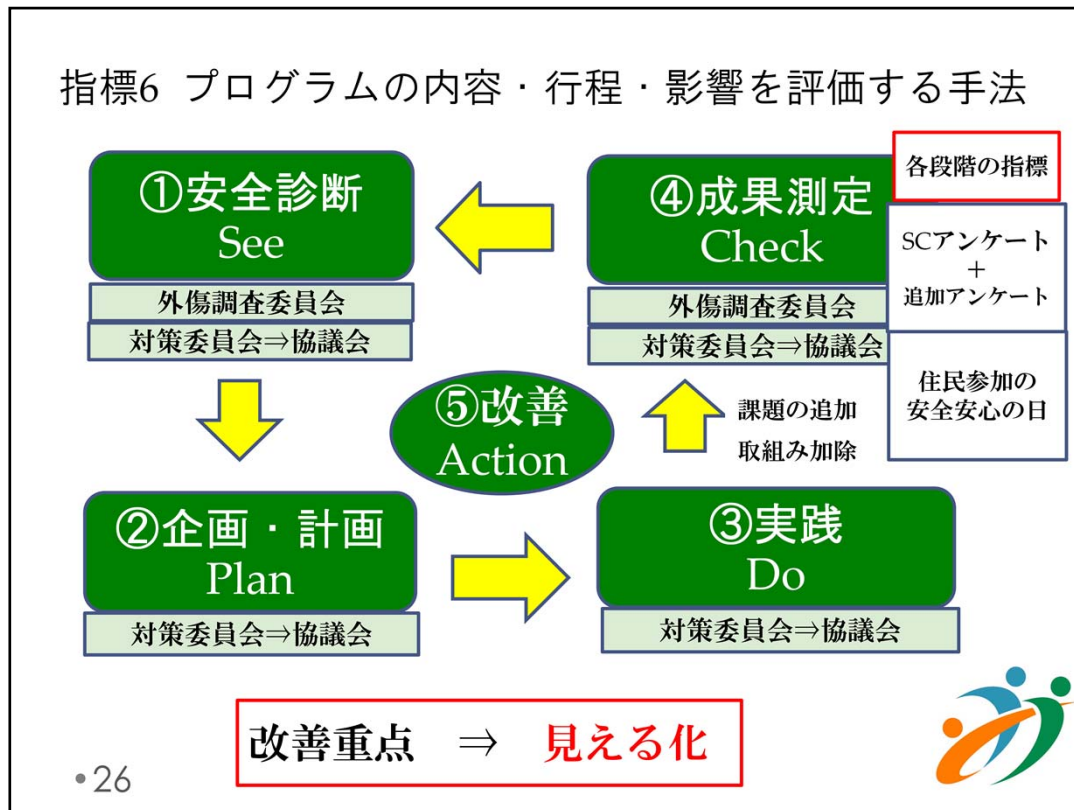
指標5 外傷が発生する頻度とその原因を記録するプログラム実施



指標5について説明します。【通訳】

日本においては、外傷に関するデータを一元的に収集・分析する仕組みがありません。このため、私たちは消防や警察、行政の関係課など外傷や安全に関するデータを持っている複数の組織・団体から情報を収集し、外傷の発生状況について地域診断をしなければなりません。【通訳】

具体的には、図に示したようにケガの種類や程度等によってさまざまな組織からデータを収集しています。また、既存の情報がない「安全に対する意識・態度」等については、定期的にアンケート調査を実施しています。【通訳】



指標6について説明します。【通訳】

取組みは、外傷調査委員会で詳しく説明しますが、収集データや各種アンケートに基づく安全診断に基づき、PDCAサイクルで進めています。【通訳】

この取組み事例として、2013年に交通死亡事故が連続して3件発生した際には、箕輪町が交通死亡事故多発非常事態宣言を発令し、セーフコミュニティ交通安全対策委員会も参加した現地診断等に基づき道路環境の改善やセーフコミュニティの「のぼり旗」で制作した交通安全タスキの各地区別全戸(9365世帯)リレーによる交通安全意識の向上を図り、死亡事故に歯止めをかけました。【通訳】

現在の改善重点は、活動が見えないことが認知度・関心度の低迷や、活動の全町展開の不十分につながっているとの判断から、「見える化」としています。【通訳】

「見える化」については、「動機づけの見える化」「目的現状を認識した、活動のための見える化」「成果の見える化」がありますが【通訳】

要は「何のために、何をして、どうなったのか」が町民にとって分かるようにしなければなりません。【通訳】

図表11 指標7 国内外のネットワークへの参加(2012～)

	年・月	関係自治体等	概要
国内	(2011～)	SC自治体	全国SC推進自治体ネットワーク会議へ継続参加
	2012	認証自治体	豊島区、小諸市の認証式等出席
	2013～	日本SC推進機構	定例会議、研修会へ継続参加
	2013	認証自治体	亀岡市、栄区、松原市、久留米市の認証式出席
	2013.6		警察庁主催の防犯フォーラムで北小河内SCが報告
	2014.2	秩父市	SCフォーラムにて北小河内SCが活動紹介
	2015	認証自治体	北本市、厚木市、秩父市認証式出席
	2015.10	栄区	区制30周年フォーラムにて町長、北小河内SCが講演
	2016	認証自治体	甲賀市、泉大津市認証式出席
国外	2012.11	アジア地域	第6回アジア会議共催(箕輪、豊島、小諸)
	2014.5	アジア地域	第7回アジア地域SC会議釜山大会参加

指標7について説明します。【通訳】

箕輪町は、積極的に国内外のセーフコミュニティネットワークに貢献しています。【通訳】

代表的なものについては、国内では、2011年に9自治体(現在15自治体参加)で設立した全国セーフコミュニティ推進自治体ネットワーク会議に継続参加。【通訳】

日本セーフコミュニティ推進機構の定例会をはじめ各自治体の認証式やフォーラムに参加し、横浜市栄区のフォーラムでは町長とモデル区の北小河内が講演をし、秩父市のフォーラムではモデル区の富田と町が活動を紹介しています。【通訳】

国外では、豊島区、小諸市と第6回アジア会議(国内159人、国外127人、箕輪へのトラベリングセミナー86人)を共催し、韓国釜山のアジア会議に参加してます。【通訳】

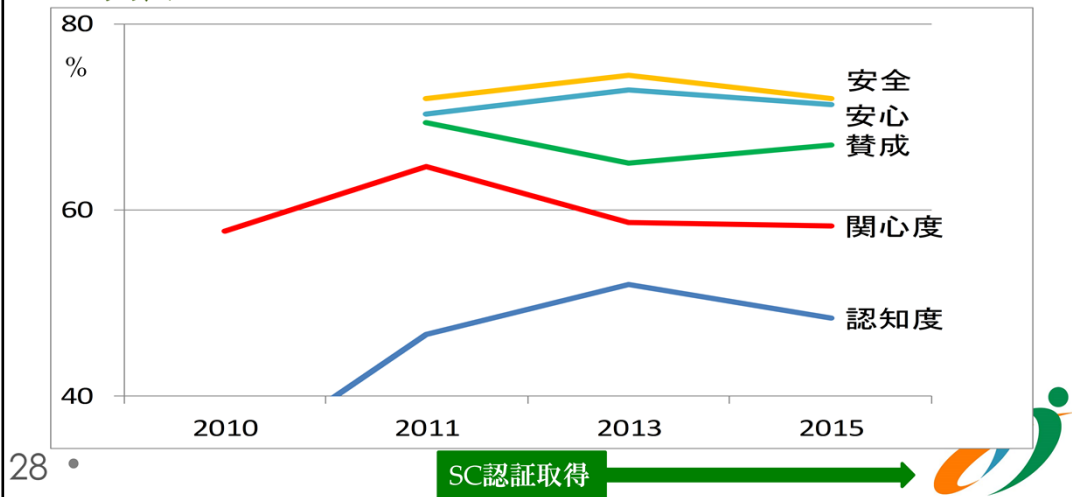
以上、箕輪町のセーフコミュニティネットワーク活動については、行政だけでなく地域の方も一緒になって取り組んでいます。【通訳】

課題 ①

SCアンケートから

■ 認知度・関心度とも、ゆるやかに低下

図表9



課題について説明します。【通訳】

これまで各年代、性別比率に応じた町民1000人を対象に2年に1回合計4回のセーフコミュニティアンケートを実施しています。【通訳】

認知度は、認証後に一旦上がりましたが、関心度とともにゆるやかに低下しています。【通訳】

【参考】若年層が認知度、関心度とも低い。【外傷調査委員会で詳細報告】

課題②

取組みから

■**地域での組織化は15地区中6地区**

費用対効果から

■**納得と協働が得られる取組み上、
より生活に密着した「見える化」が不足**

委員構成から

■**女性が少ない 推進協11.3% 対策委員会21.7%**

29.



さらに

地区での取組みは広報や出前講座を実施して全町展開を目指し、これまでに15地区中6地区で組織化されましたが、全町展開からすると今後における大きな課題です。

【通訳】

セーフコミュニティに関する理解と協力いわゆる協働については、一部において「やっていることが見えない」とか「費用対効果はどうなのか」等の声もあり、共通して言えるのは「見える化」が不足していることです。【通訳】

セーフコミュニティの推進組織として、推進協議会、各対策委員会がありますが、女性委員の構成率は推進協議会が11.3%、対策委員会が21.7%と少なく、女性の声をどう活動に吸い上げて反映するかが課題です。【通訳】

【参考】

推進協議会	委員	71人	女性	8人(11.3%)		
○外傷	委員	7人	女性	2人	○交通	委員 8人 女性 2人
○子ども	委員	12人	女性	2人	○高齢者	委員11人 女性 1人
○くらし	委員	11人	女性	1人	○自殺	委員 11人 女性 5人
					委員会委員	60人 女性 13人 21.7%

今後の展望

女性参画等の拡大

データの収集と分析

○より対策に資するデータ

○より効果のわかるデータ



見える化

動機付け、活動、成果



弱者対策と若年層への普及



全町展開



安全安心なまち

ブランド化



•30

今後の展望ですが、【通訳】

セーフコミュニティ活動の全町展開により、真に安全・安心な町が箕輪町のブランドになるようにすることで、(通訳)

そのために、女性参画を拡大するとともに、より対策に資するデータ、より効果のわかるデータを収集分析し、活動と成果の見える化を図ります。

特に対策の必要がある弱者及びその環境対策と関心の低い若年層への普及を図ります。(通訳)